

## 「英語移住しませんか?」という キヤッチコピは本物であった 大沼由美子

「無料」で受けられる先進的な英語教育。全ての小中学校に3人以上のALTが常駐し、ホノルルへのホームステイや英検受験料無料、河口湖・軽井沢でのイングリッシュキャンプ（英語漬けの1週間）などが実施されている。小6での英検5級合格率がなんと

75%、中3で英検級が52%！  
全ての子どもが英語を話せる町を目指しているという。  
残念ながらスケジュールの都合で実際に複数のALTの指導風景は体験できなかったが、英検の合格率が英語教育の成果を証明しているはずである。

## 住宅支援の先進地

大沼由美子

住みたい田舎ベストランキングで全国1位を誇っている理由の一つは「25年間賃貸で住み続けると、戸建てと土地がもらえる！」

規模的には、人口は新島村の約10倍の約2万4千人だが、英語教育や住宅支援だけにとどまらず、何もかもが桁外れに潤沢な財政状況に圧倒された。その資金調達の凄腕さは、議員のレポートを是非参照してほしい！



▲もらえる戸建住宅アイレットハウス

## ふるさと納税で財源確保

青沼弘

平成25年度の境町の財政状況は、貯金7・1億円、借金171・9億円、将来負担比率184・1%で、北関東104市町村中ワースト1位。このままでは財政破綻の危機である事がわかり、財政再建に取り組む事になった。新たな財源獲得の一つとして、ふるさと納税に取り組むことに。

まずは、茨城産紅はるかを使用した干し芋を始めに、いろいろな返礼品を展開し、ふるさと納税が99億3811万円（令和5年）と、茨城県で1位（8年連続）となった。その甲斐もあり、令和5年度には、貯金49億円、借金148・8億円、将来負担比率49・7%と、改善された。

ちなみに主な返礼品は、牛肉・お米・干し芋・国産うなぎ・手づくりウイスキー等がある。それ以外にも、数多くの返礼品もあるようだ。その他、企業版ふるさと納税で、令和5年度には、3億2316万円の寄付を獲得している。

新島村でも、令和4年からふるさと納税を開始しているが、もう少し返礼品の種類を増やしても良いのでは？ と考えることがあるが、これには、個人・企業様の協力が必要かと思う。何にしても、村の財源を確保するには、必要である事には間違いないであろう。



▲ふるさと納税の目玉返礼品ほしioも